

### 【学位論文審査の要旨】

本論文は、内的動機付けのある地域住民を対象に、訪問看護師が行う看護ケアについて独自のプログラムを考案、実施することにより、開発したプログラムの有用性を明らかにしようとしたものであった。

本論文で得られた成果は以下のように要約できる。

1) 訪問看護師の活動範囲とされる中学校区の生活圏域に居住する地域住民の中でも、特に「内的動機付け」という概念を用いて、支援の対象をある程度、明確にすることが可能となった点である。社会的背景や疾病構造の変化、これまでの看護実践家らの活躍やその実績のレビューにより、訪問看護師は地域住民のパートナーとして、コミュニティの健康課題の解決を支援する者として、期待されてはいてもその具体的な方法は定まっていなかった。本研究成果より、訪問看護師による支援内容や方法が提示されることで、訪問看護師が在宅療養の支援者であるだけでなく、地域住民を支援の対象とする根拠とその具体的な方策を明確化した点は実践的に意義あるものと評価された。

2) 身体に介入する看護ケア技術と認知へ働きかける教育教材という心身両面から介入するプログラムを考案した点である。文献レビューより、地域住民は多くの健康課題を抱えている現状を示し、その解決方法が住民自身に負うところが大きいこと、つまりは住民の自主的な健康管理を前提としたとき、住民が最も必要とする知識や情報の理解をよりわかりやすい納得できるものとするために進化医学の考え方を参考にしてプログラムを考案した点である。マッサージ法を用いた看護ケア技術とからだの理解を促す教育教材を組み合わせた本プログラムは、単独のケア群や無介入群と比較してより効果的である点が確認できたことである。対象者やケア提供者の交絡バイアスの問題も残ってはいるが、本プログラムの新奇性は高く評価された。今後、プログラムの精練とともに「内的動機付けのある」対象集団の特定をよりいっそう明確にしていくことが課題である。

3) 地域住民を対象とした看護ケアを実践する訪問看護師に必要とされる専門的知識と技術について、本研究の成果から、新たな方向性を示すことができたものと評価された。特に「内的動機付け」のある段階で看護介入する必要性は、住民自らが自己決定していくために必要な知識や情報に気づかせ、自分のからだに意識を向けることにつながる可能性が示された。看護ケアに必要とされる看護師の技術の効果を可視化し、住民との意図的なコミュニケーション能力を発揮することは、同時に看護師の専門性を高めることにもつながることを示した点も意義あるものと評価された。本論文の成果は、訪問看護の質を高めるための看護実践および研究、教育の質向上に貢献するものと評価された。

論文審査会における主な質疑は、「内的動機付けのある地域住民」のもつ意味、この定義によるメリットとデメリットについて、対象者やケア提供者の交絡因子についての取り扱い、統計分析方法の確認、データ収集期間（季節など環境要因）や年齢幅と自律神経活動の評価に対する影響について、プロトコール設計における詳細な説明、そして教材に進化

## 博士学位論文審査の要旨

医学を参考とした効果をどのように考えるか、さらに研究成果の看護学への貢献などについて問われた。申請者からはこれらの質問・指摘に対して、今回の研究での限界、非ランダム化に至った理由などを踏まえて、結果の解釈や、課題を理解しており、質問についておおむね妥当な回答が得られた。また、指摘された点についても検討して、研究を発展させることのできる能力を有することが確認された。公聴会の発表及び質疑応答も妥当な内容であった。

以上のことから、本論文は博士論文に値し、申請者は博士(看護学)の学位に相当する学識と研究能力を有し、審査結果は合格と判断した。